

富士商會
脱炭素シンポジウムに登壇

自社の脱炭素の取り組み紹介

法人顧客を中心に営業している独立系代理店の富士商會が、7月30日に東京都千代田区で行われた日本商工会議所と東京商工会議所共催のシンポジウム「中小企業の『攻め』の脱炭素経営」に参加した。当日は第2部のパネルディスカッションに同社代表取締役の中江久氏がパネリストとして登壇し、自社の脱炭素経営に関する取り組みを紹介した。

東京商工会議所では中けた好取り組み事例を紹介した。脱炭素・省エネ介している。富士商會は早くから環境問題に強い意識を持ち、2023年に保険代理店業では全国でわずか22社(25年5月時点)しか取得していないエコアクション21の認定を受けた。脱炭素・省エネ介している。富士商會は早くから環境問題に強い意識を持ち、2023年に保険代理店業では全国でわずか22社(25年5月時点)しか取得していないエコアクション21の認定を受けた。

中江氏



中江氏

シンポジウムの冒頭、あいさつに立った東京商工会議所中小企業のカーボンニュートラル推進特別委員会委員長の北沢利文氏は、今年2月に政府が閣議決定した「GX2040ビジョン」「第7次エネルギー基本計画」

「地球温暖化対策計画」などにも触れながら、「環境配慮を意識した経営をしなければ、企業は社会的な信用力や競争力を失う」という時代に入りつつある」と述べ、脱炭素が中小企業にとっても重要な課題であることを

強調した。その上で、このシンポジウムにより企業が脱炭素経営に対する理解を一層深め、個々の具体的なアクションにつなげることを望むと述べた。

その後行われた第1部の基調講演では、東京大学未来ビジョン研究センター教授の高村ゆかり氏が「中小企業のための脱炭素経営」をテーマに、脱炭素を取り組むための具体的な取り組みを紹介した。

中江氏は23年に「エコアクション21」の認証を取得した経緯についても、「自社が社会課題に積極的に取り組む姿勢をしっかりと対外的に示したいと考えた」と述べた。

中江氏は「共に登壇した2社の取り組みが非常に参考になった。当社はメーカーのようなCO2の排出量の多い企業ではないが、それらの業種の顧客が日頃どのような取り組みをしているかを学ぶことができ、勉強になるパネルディスカッションだった。今後はより従業員の意見を取り入れながら、情報もアップデイトしつつ脱炭素に取り組んでいきたい」と述べた。

損害保険代理業として環境問題に向き合う

法などを紹介した。

第2部のパネルディスカッションでは中江氏が、菊川工業代表取締役会長の宇津野嘉彦氏と甲子化学工業企画開発部長の南原徹也氏とともにパネリストとして登壇し、自社の脱炭素に関する取り組み事例を紹介した。

中江氏は「共に登壇した2社の取り組みが非常に参考になった。当社はメーカーのようなCO2の排出量の多い企業ではないが、それらの業種の顧客が日頃どのような取り組みをしているかを学ぶことができ、勉強になるパネルディスカッションだった。今後はより従業員の意見を取り入れながら、情報もアップデイトしつつ脱炭素に取り組んでいきたい」と述べた。